

評価項目	自己評価	
I 教育課程	1. 教育目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新入生に対しては新入生説明会、在校生に対しては全校集会・行事等で、保護者に対しては保護者会等で教育目標を周知させた。</li> <li>・スーパーグローバルハイスクール（SGH）の目標については、SGHのパンフレットを作成・配布し、生徒・保護者への周知に努力した。</li> </ul>
	2. 教育課程の編成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新教育課程の意義に則り、適切な運用・実施に努力した。</li> <li>・SGH指定校として教育課程の再編成と内容のさらなる充実を努めた。</li> <li>・3学年1月の授業については、今年度より通常授業は行わず、生徒の進路に応じた補習授業を行うなどし、より効果的な学習指導に努めた。</li> </ul>
	3. 年間授業日数・時数	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校行事全般の意義を考えながら、必要な授業日数・時数の確保に努めた。月曜日の授業を1回他の曜日に振り替え、授業時数を調整した。</li> </ul>
	4. 教育活動とその成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各教科とも適切な教育活動に努めた。3年の英語の授業では、今年度から3クラス5展開の少人数学級編成を行い、成果を上げることができた。</li> </ul>
	5. 行事	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運営組織に対し適切に指導すると同時に、生徒の自治意識を高めるよう支援した。</li> </ul>
	6. 進路指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期考査前にチューター（お茶大）による放課後の補習を行い、成果を上げた。</li> <li>・3年生を対象とした進路面談の機会を増やした。</li> <li>・学力データを整理し、進路指導の成果を検証した。</li> <li>・進路指導に関する情報を定期的に生徒に発信した。</li> </ul>
	7. 研究・研修	<ul style="list-style-type: none"> <li>・SGH指定校として2年目の計画に則り、研究開発を推進した。今年度までの成果と課題をもとに来年度の計画の実施に向けて見直しを持つことができた。</li> <li>・11月の公開教育研究会でSGHの1講座を含む4教科の授業を公開し、日頃の成果を発表した。</li> <li>・校内研修会を8月に実施した。進路およびSGHのテーマを取りあげ、情報共有・ディスカッション等を行い、その成果をその後の教育活動に生かすことができた。</li> <li>・大学と連携した授業研究等を例年通り進めた。</li> <li>・教員研究費を図書費・教材費・出張旅費などに活用した。</li> </ul>
	8. 帰国国際教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・留学・復学に関する手続きを適切に処理した。</li> <li>・SGHの活動の一環として、グローバル総合の授業と連携させた2件の海外研修を実施した。</li> <li>①生徒6名、教員1名が8/15～8/22に中国（天津）で行われたイオン1%クラブ主催アジアユースリーダーズに参加した。</li> <li>②生徒41名、教員6名が10/21～10/24に台湾（台北）を訪問し、台北市立第一女子高級中学との交流を中心に、ジェンダー、環境、ICTに関する研修を行った。</li> <li>・タイ王国のチュラーロンコーン大学附属中等学校との交流を中心としたタイ（バンコク）研修を8/20～8/25に予定していたが、直前の爆弾テロ事件を受け、中止した。</li> <li>・ジャバソサエティより7/13～7/17にアメリカからの留学生を受け入れた。</li> </ul>
	9. 自治（会）活動の指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・執行部・各委員会・各部に対し、自主・自律の精神を育成するという観点から、適切な指導・支援を行った。</li> <li>・自治会予算の適切な編成と執行を指導および監査した。</li> </ul>
その他		
A 普通教育を行う学校園として	1. 経営・組織	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校経営計画を立案し、重点目標を決定し、学校評価を円滑に行った。</li> <li>・企画運営委員会を24回開催し、内規の改訂、非常時対応の変更、新入生説明会の運営方法の見直し、準備室等の再配置などを行うとともに、業務の軽減・改善等の課題について検討した。</li> <li>・PTA、教育後援会、同窓会等と連携して教育環境を整えることに努力した。</li> </ul>
	2. 出納・経理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・予算委員会・副校長・総務部を中心に、校費・寄付金（運営基金）・諸費用などの予算執行を適切に進めた。</li> <li>・SGH予算を実際の研究開発に合わせて変更しつつ、効果的に運用した。</li> </ul>
	3. 施設・設備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・営繕要求の提出機会に、グラウンドの全面改修をはじめとする12項目を営繕要求書として大学に提出した。</li> <li>・体育館の非構造部材の耐震補強工事、校舎の階段照明の改修、網戸の整備などが実施された。</li> <li>・教育後援会の協力により、卓球台の更新などを行った。</li> </ul>
	4. 健康	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校保健安全計画に基づき、生徒の健康の保持・増進ならびに安全教育に努めた。</li> <li>・生活会議において教員全体の情報共有と共通理解をはかり、カウンセラーや担任との連携を取りつつ、個々の生徒に対する健康相談及び支援を行った。また、教科を通してメンタルヘルスリテラシーの指導を実施した。</li> </ul>
	5. 安全	<ul style="list-style-type: none"> <li>・減災の観点から、大学と連携して安全管理体制を見直し、その充実を努めた。</li> <li>・防災訓練を適切に実施するとともに、防災設備を確認し、防災用品の防災倉庫への機能的な配置を検討していくこととした。</li> <li>・防災だより等を通じて、安全管理に関する指導を生徒に対して適切に行った。</li> <li>・副校長が大学の防災教育専門部会の委員を務め、大学と連携して地震を中心とした防災教育テキストを作成し、生徒に配布した。</li> </ul>
	6. 情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内ネットワークの整備を進め、接続エリアの拡大と安定性の向上が実現できた。</li> <li>・大学と連携して情報セキュリティに係る整備を進めた。</li> </ul>
	7. 開かれた学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページに英語版学校紹介を追加するとともに、35件(2/3現在)の活動報告を更新するなど、ホームページを効果的に運用した。</li> <li>・6月と9月に学校説明会を開催した。第2回は輝鏡祭と同時開催として集客を図った。 (参加者数-第1回:217組 422名、第2回: 323組 775名)</li> <li>・6月と11月に保護者授業参観を実施した。(参観者数: 6月90名 11月78名)</li> <li>・学校評議員会および学校関係者評価委員会6月と3月に開催し、学校運営および学校評価について有益な助言を得た。</li> <li>・8月に第19回中学生向け理数一日体験授業を実施した。6講座を開講し、84名の中学生が参加した。</li> </ul>
	8. 入学検定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入学検定を公正・適切に実施するよう努力し、実施した。</li> <li>・入試問題の作成においては、作成日程を見直すとともに、さらにチェック体制を強化することとした。</li> </ul>
	9. 保護者との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者と学校間の連絡を適切に行い、意志の疎通を図った。</li> <li>・PTA活動の効率化を図った。</li> <li>・PTA役員と連携して、附属校園PTA連絡会における講演会を計画・実施した。</li> <li>・PTAと教育後援会の役員懇談会を開催し、連携を図った。</li> </ul>
	10. 学年活動	<p>1学年</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高校生としての自覚を持ち、よい生活習慣・学習習慣を確立できるよう指導した。</li> <li>・学校行事や委員会・部活動を通して自主自律の精神を学び、他者と協働できる態度を身につけるよう支援した。</li> <li>・学習のガイダンスや、テストを活用した復習の在り方の指導を計画的に行い、学習意欲の向上と基礎学力の定着を図った。</li> <li>・卒業生の話を聞く会やお茶大キャリアガイダンスを通じて、自分の将来像を考える機会を提供し、進路選択の可能性を広げられるよう支援した。</li> </ul> <p>2学年</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各行事、部活、委員会等において、積極的なリーダーシップを発揮し、学校の中心的存在として活躍できるよう働きかけた。特に行事に対する取り組みにおいて、新たな工夫や試みに挑戦する姿勢に結びつけることができた。</li> <li>・学習・進路指導では、学力テストを複数回実施することで学習到達度を確認し、学力の定着を図ったほか、卒業生を招いての進路講演会や外部講師による講演会を開催し、さまざまなアプローチで進路やキャリアについて考えさせる場面を提供した。</li> </ul> <p>3学年</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・面談等の機会を活用しながら、生徒の個性と能力に合わせ、自己実現に向けて計画的かつ主体的に進路選択ができるよう支援した。</li> </ul>
その他		

B 大学 の 附 属 学 校 園 と し て	I ・ 大 学 と の 連 携	1. 連携研究	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学および附属校園との連携研究を適切に行うよう努力した。</li> <li>・大学関係の研究調査依頼が1件あり、調査に協力した。</li> <li>・高大連携実施委員会が6回開催され、高大連携特別教育プログラムの実施・運営に協力した。</li> <li>・各教養基礎教科は大学教員とのカリキュラム研究を行った。</li> <li>・大学の公開授業をのべ53名の生徒が受講した。</li> <li>・「選択基礎」を6名が受講し、特別入試で6名がお茶の水女子大学に進学することになった。</li> <li>・学校教育研究部を中核とする5附属校園間の連携研究に12名が参加し、研究に寄与した。</li> <li>・学校教育研究部の協力の下、附属高校生向けキャリアガイダンスが全学部で実施された。</li> <li>・大学のサマープログラム（英語）に生徒80名が参加するなど、グローバル人材育成推進本部と連携し、グローバル女性人材の育成に取り組んだ。</li> <li>・大学院高度教育研究副専攻プログラムでは、数学科1名、英語科1名を受け入れ、研究に協力した。</li> <li>・東京工業大学サマーチャレンジに3年生9名が参加した。特別選抜には3名が合格し、さきがけ教育を受講した。また7月のWomen in STEMには生徒8名が参加、12月にはウィンターレクチャーを実施し、1、2年生全員および3年生希望者が受講した。</li> </ul>
		2. 授業交流	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学や附属学校園との授業交流や授業公開を行うよう努力した。</li> <li>・教養基礎の国語・数学・英語、グローバル地理、生物、家庭総合および総合的な学習の時間で、大学の教員による授業を実施した。</li> </ul>
		3. 教育実習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前期30名、後期34名の教育実習生を受け入れ、教育実習および事前・事後指導を通じて、教科指導の専門性や教員としての資質・能力を向上させるべく指導に努めた。</li> <li>・文化祭や学校説明会の運営補助など登壇実習以外の教員の職務を経験させ、実習をより有意義なものとした。</li> <li>・教育実習専門部会との連携を密にし、実習が有意義に行われるよう指導に努めた。</li> </ul>
		4. 専門委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各専門委員会はその目的に沿って適切に活動した。</li> <li>・附属学校園連絡進学ワーキンググループ、中高連絡進学検討会で連絡進学のあり方についても検討を行った。</li> </ul>
		5. 大学の講義担当	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4教科6名が教科教育法の授業を担当し、高校での授業見学も含めてその効果が上がるように実施した。</li> <li>・教職実践演習を含む教科教育法以外の授業（5科目）を5名が担当した。</li> </ul>
		6. インターンシップ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グローバル地理、グローバル総合「国際協力とジェンダー」で各1名、体育科2名、家庭科3名と、積極的にインターンシップを受け入れ、内容の充実を図った。</li> </ul>
		その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学の国際交流イベント「ジョイントフォーラム2015」10/24に生徒16名が参加し、世界75カ国のミスインターナショナルとの交流の機会を得た。</li> <li>・グローバル総合の授業や海外研修の事前学習などで、お茶の水女子大学の留学生との交流機会を設けた。</li> </ul>
II ・ 社 会 貢 献	社 会 貢 献	1. 授業参観 研修生の受け入れ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外部からの授業参観・学校訪問等を7件受け入れた。</li> </ul>
		2. 公開教育研究会開催	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科およびSGHの科目の研究授業を行い、日頃の研究成果およびSGHの取り組みを社会に発信した。</li> </ul>
		3. 初任者研修・現職研修	(2015年度該当なし)
		4. 途上国支援	(2015年度該当なし)
		5. 出版活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究紀要を適切な内容で適切な時期に発行し、お茶の水女子大学教育・研究成果コレクションTeaPotへ掲載した。</li> <li>・SGH指定校として、報告書および生徒論文集を作成した。</li> </ul>
		6. 各種研究会への協力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講師等派遣依頼が14件あった。</li> <li>・学内外の研究会等に積極的に参加した。また、これらの団体に対し、施設貸与等も積極的に行った。</li> <li>・施設貸与：英語科関係(8)、全附連関係(2)、体育館等(3)、テニスコート(6)</li> </ul>
		その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3月にはSGH生徒論文発表会を実施し、1年間の探究活動の成果を発表した。</li> <li>・ジャパソサエティより7/13～7/17にアメリカからの留学生1名を受入れた。</li> </ul>

## 2015(平成27)年度 学校評価(自己評価)重点目標まとめ

### 1. 研究・研修(A-I-7)

- ・SGH指定校として、より充実した教育課程を適切に実施する。
  - ⇒ SGH指定校として、2年目の計画に則り、研究開発を推進した。今年度の反省をもとに、研究計画や教育課程の見直しを検討中である。
  - 3月に課題研究の成果発表会を開くとともに、研究報告書、生徒の論文集を作成した。

### 2. 帰国・国際教育(A-I-8)

- ・SGHの活動の一環として、台北研修およびバンコク研修を行う。
- ・イオン1%クラブ主催のアジア・ユースリーダーズのプログラムに参加し、天津での研修を行う。
  - ⇒ ・SGHの活動の一環として、グローバル総合の授業と連携させた2件の海外研修を実施した。
    - ①生徒6名、教員1名が8/15～8/22に中国(天津)で行われたイオン1%クラブ主催アジア・ユースリーダーズに参加した。
    - ②生徒41名、教員6名が10/21～10/24に台湾(台北)を訪問し、台北市立第一女子高級中学との交流を中心に、ジェンダー、環境、ICTに関する研修を行った。タイ王国のチュラーロンコーン大学附属中等学校との交流を中心としたタイ(バンコク)研修を8/20～8/25に予定していたが、直前の爆弾テロ事件を受け、中止した。

### 3. 施設・設備(A-II-3)

- ・校舎・体育館・校庭などの改修・整備を大学に要求し、実現に向けて努める。
  - ⇒ 営繕要求の提出機会があり、グラウンドの全面改修をはじめとする12項目を営繕要求書として大学に提出した。体育館の非構造部材の耐震補強工事、校舎の階段照明の改修、網戸の整備などが実施された。

### 4. 安全(A-II-5)

- ・減災の観点から、大学と連携して安全管理体制を見直し、その充実に努める
  - ⇒ 大学に防災教育専門部会が設置され、地震を中心とした防災教育テキストを作成した。
  - 大学全体の緊急メール連絡網システムに高校も加わったが、高校からの発信ができなかった。来年度は高校からも発信できるよう、大学側と協議中である。

### 5. 開かれた学校(A-II-7)

- ・ホームページの効果的な運用に努める。
  - ⇒ ・ホームページに英語版学校紹介を追加するとともに、34件(3/2現在)の活動報告を更新するなど、ホームページを効果的に運用した。
  - 来年度は大学全体でホームページを統合したうえで、各部署で運用する予定である。

### 6. 連携研究(B-I-1)

- ・グローバル人材育成推進本部と連携し、グローバル女性人材育成を図る。
  - ⇒ 大学のサマープログラム(英語)に生徒80名が参加するなど、グローバル人材育成推進本部と連携し、グローバル女性人材の育成に取り組んだ。
  - 大学の国際交流イベント「ジョイントフォーラム2015」10/24に生徒16名が参加し、世界75カ国のミスインターナショナルとの交流の機会を得た。